

A8000シリーズ取扱説明書

温度測定: A8□□D-0□
測温抵抗体



△ 注意

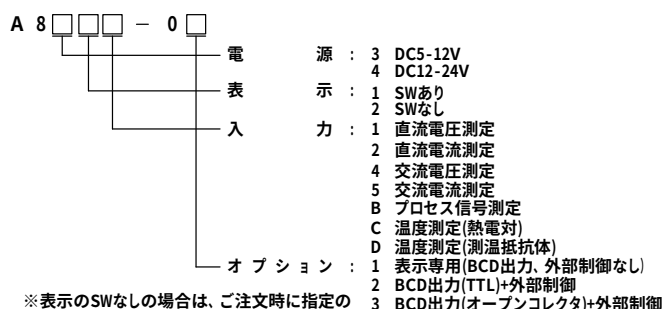
- (1) 入力に最大許容値を超える電圧や電流を加えると、機器の破損につながります。
- (2) 電源電圧は使用可能範囲で使用して下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。
- (3) 本書の内容に関しては製品改良の為予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (4) 本書の内容については万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれ等お気付きの点がありました場合は、取扱店又は直接弊社へご連絡下さい。
- (5) 本書をお読みになった後は、いつでも見られる場所に保存して下さい。

1. お使いいただく前に

この度はA8000シリーズをお買い上げいただきまして有り難うございます。この取扱説明書はお使いになられる方のお手元にて保管していただくようお願い致します。また、輸送途中での破損等をご確認の上、お気付きの点がありました場合は、取扱店又は直接弊社へご連絡ください。

1.1. 型式構成

A8000シリーズの型式構成は下図のようになっております。ご注文時に選択された製品とお手元の製品に違いがないことをご確認願います。



※表示のSWなしの場合は、ご注文時に指定の設定値を設定して出荷します。

フロント面の印刷はありませんがスイッチは実装されています。

[ご注意] 本機は表示専用を選択した場合、BCD出力、外部制御なしとなります。

1.2. 付属品の確認

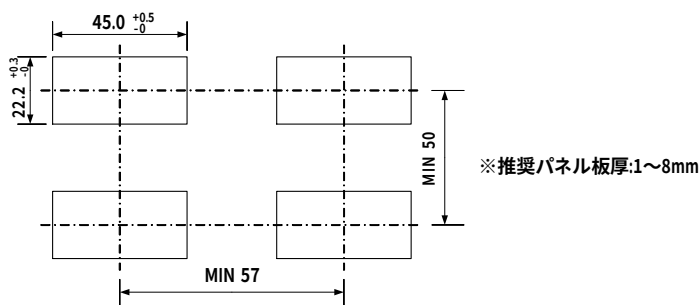
A8000の付属品は取扱説明書1部、単位シール1枚となっております。

※オプションでBCD出力を選択した場合は、BCDコネクタ(カードエッジタイプ26P)が付属されます。

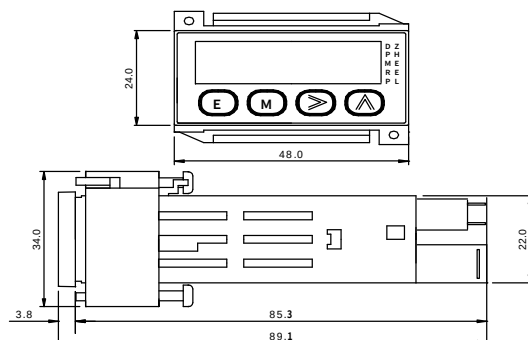
2. 取り付け方法

2.1. パネルカット寸法

A8000シリーズを取り付ける際のパネルカットは、下図のようになります。



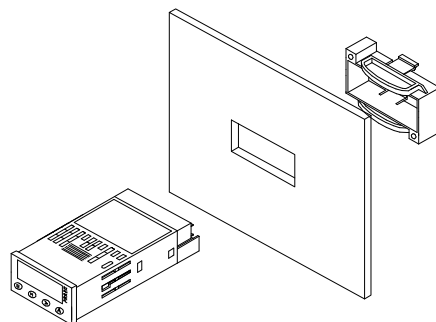
2.2. 外形寸法



※表示のSWなしの場合はフロント面の印刷はありません。

2.3. パネル取り付け方法

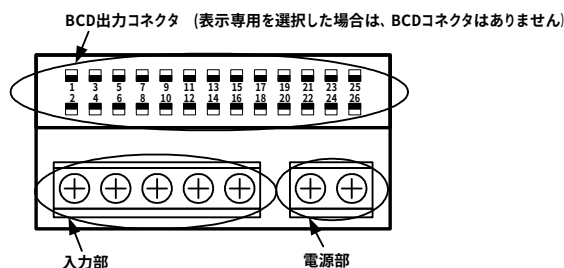
本体から取り付けバンドを外した状態でパネル前面より挿入し、パネル後方から取り付けバンドにより固定してください。



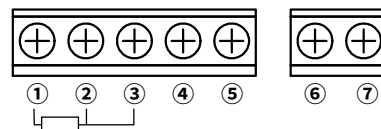
△ 注意

- (1) ちり、ゴミ、電気部品に有害な化学薬品、腐食性ガス等のない場所で使用して下さい。
- (2) 本器を装置内に設置する場合は、装置内の温度が50℃以上にならないよう放熱等にご注意下さい。
- (3) 振動、衝撃がかからないようにして下さい。

3. 端子の説明及び接続方法



下側端子



- ①: 抵抗素子導線接続端子 A
- ②: 抵抗素子導線接続端子 B
- ③: 導線抵抗除去線の接続端子 C
- ④⑤: NC端子

・NCには何も接続しないでください。

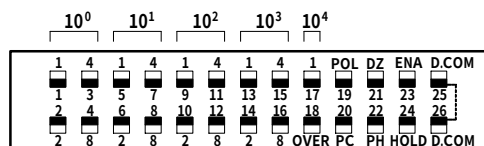
⑥: 電源端子 (DC POWER 0V)

⑦: 電源端子 (DC POWER +V)

・本器には電源スイッチが付いていませんので、電源を接続するとすぐに動作状態となります。

上側端子 (BCD出力付きのみ)

※表示専用を選択した場合、BCD出力、外部制御なしとなります。



△ 注意

- (1) BCD出力の論理はコンディションデータのBCD論理パラメータで切り替え可能です。P.LOGで正論理となりN.LOGで負論理となりますが、これはBCD出力タイプがオープンコレクタタイプの場合であり、TTLタイプの場合は設定した内容と逆になります。

1~17:各桁のビット1-2-4-8出力

18:BCDオーバー出力

19:BCD極性出力

20:BCD印字指令出力

21: デジタルゼロ

・D.COM端子と短絡または“0”レベルにすることにより、直前に表示された値を“ゼロ”として測定します。以後はそのポイントからの変動幅を表示する機能です。

22:ピークホールド

・D.COM端子と短絡または“0”レベルにすることにより、最大値(ピークホールド)、最小値(バレーホールド)、最大値と最小値との差(ピークバレーホールド)を表示保持する機能です。機能の切換は、コンディショニングデータで行います。

23:BCDイネーブル

・D.COM端子と短絡または“0”レベルにすることにより、BCD出力がハイインピーダンスまたはトランジスタOFFとなります。

24:ホールド

・D.COM端子と短絡または"0"レベルにすることにより、表示を保持します。

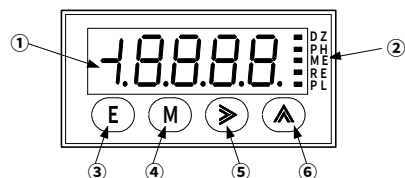
25.26:D.COM

・BCD及び制御端子の共通端子です。

"0"レベル:0~1.5V, "1"レベル:3.5~5V, 入力電流:-0.5mA

4. パラメータの設定について

4.1各部の名称と機能



- | | |
|---------------|--|
| ① メイン表示部 | : 測定値及びパラメータ設定時のメニューや内容の表示。 |
| ② 機能モニタ表示部 | : 制御機能使用時に点灯。また各種設定時に点滅。 |
| ③ エンタースイッチ | : 測定状態からパラメータ設定状態への移行(エンター + モード)。 |
| ④ モードスイッチ | : パラメータ設定時の変更項目の移動。
シフトデータ設定状態への移行(モード + シフト)。
デジタルゼロの前面ON/OFF制御(モード + インクリメント)。 |
| ⑤ シフトスイッチ | : パラメータ設定時の桁移動。
シフトデータ設定状態への移行(モード + シフト)。 |
| ⑥ インクリメントスイッチ | : パラメータ設定時の数値選択(インクリメント)及び内容選択。
デジタルゼロの前面ON/OFF制御(モード + インクリメント)。 |

※ コンディショナーデータのb.uPがOFFの時は、電源を切るとデジタルゼロ値は解除されます。
SWなしの場合は、フロントシートの印刷はありませんが、スイッチは実装されています。

4.2表示と文字表記

[illegible]

4.3 パラメータの種類とプロテクトレベル

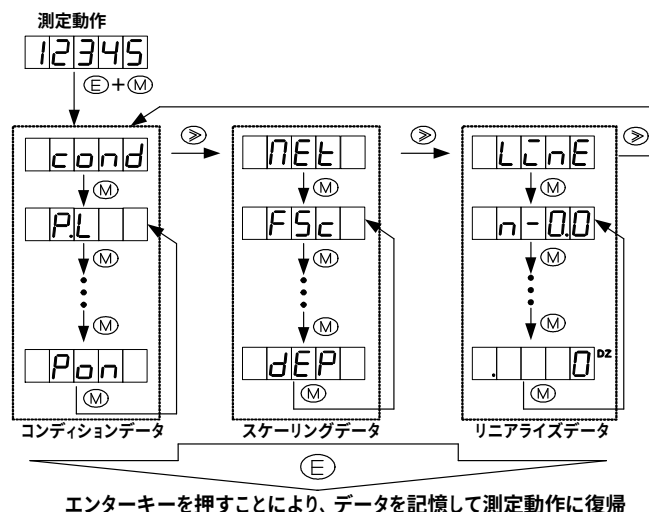
パラメータは下記のように主な目的によりグループに分かれています。コンディションデータ内のプロテクト設定により、設定可能なパラメータに制限をかけることができます。

コンディションデータ … サンプルング速度や各制御の動作タイプなど基本的な動作を設定するパラメータのグループ

スケーリングデータ ... スケーリングなど計測に関するパラメータのグループ

リニアライズデータ … 入力値と表示値の直線性を補正する機能に関するパラメータのグループ

4.4パラメータ設定モードへの移行



4.5 プロテクトレベル

プロテクトレベル0 (PL0) … 全てのパラメータの表示 (設定) が可能です。

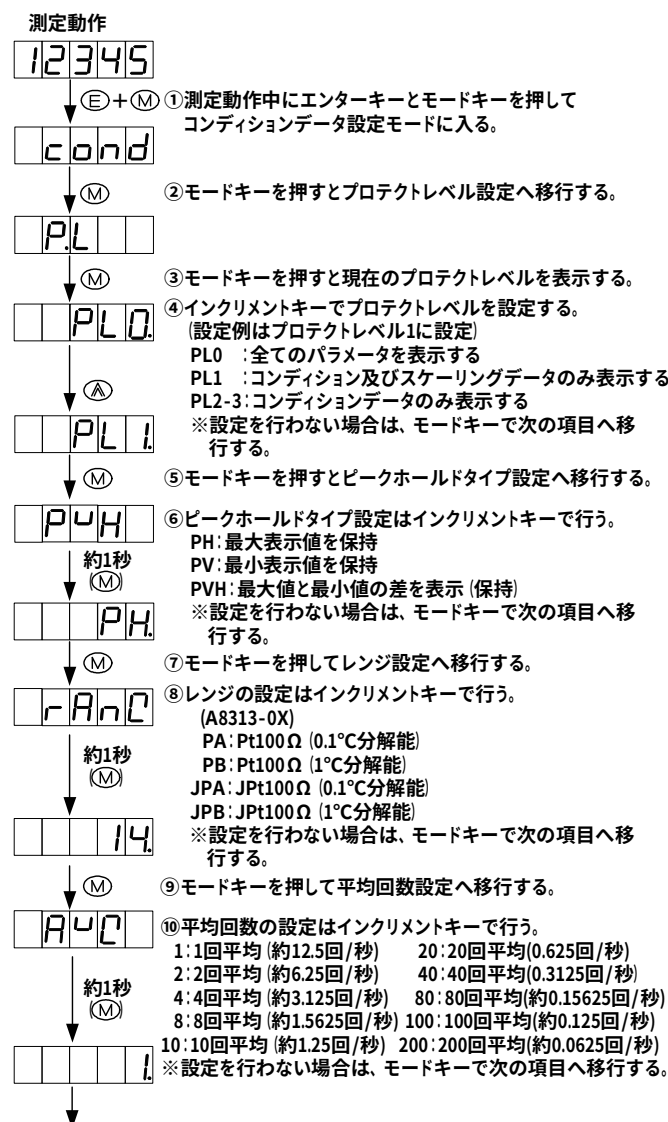
プロテクトレベル1 (PL1) … コンディション及びスケールングデータの表示 (設定) が可能です。
注意: コンディションデータの表示 (設定) はプロテクト、レンジ及び平均回数 (サンプリング) のみとなります。

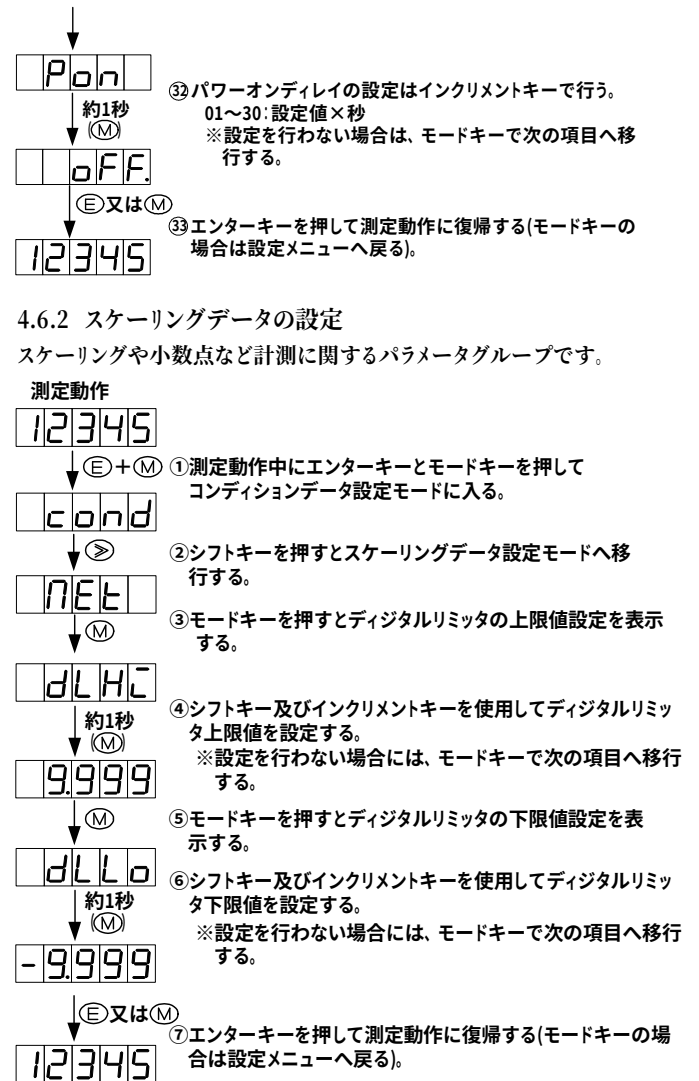
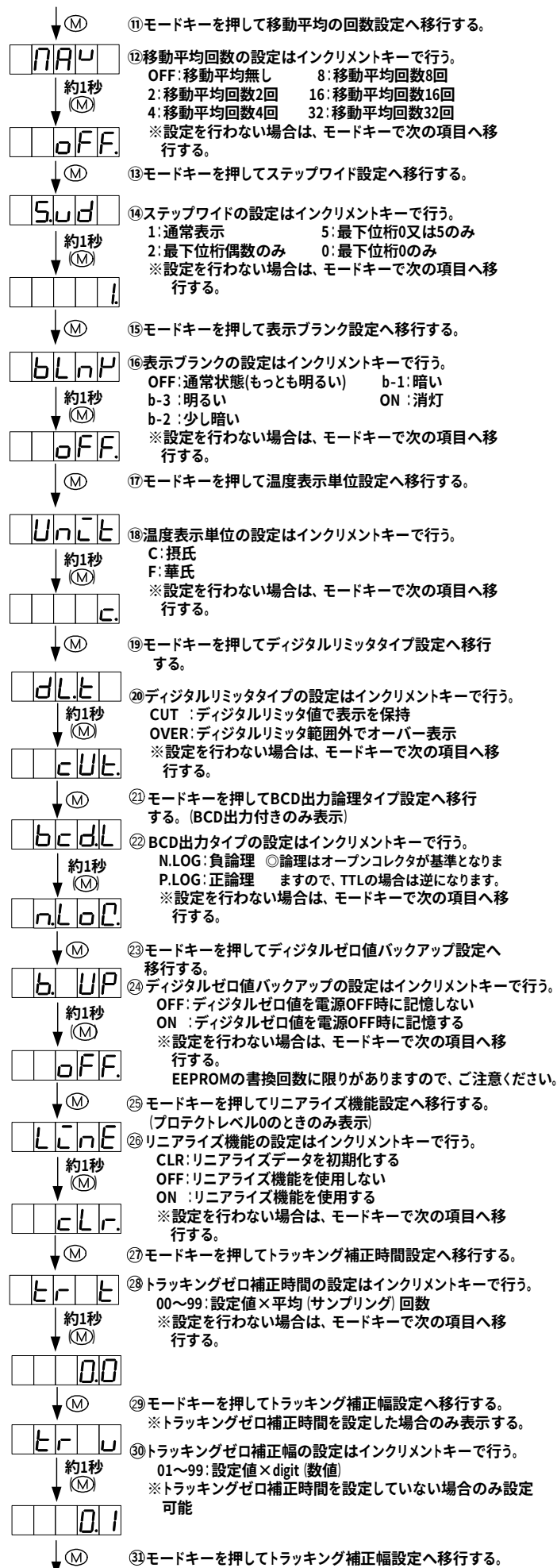
プロテクトレベル2.3(PL2.3) … コンディションデータのプロテクトレベルのみ表示(設定)可能です。

4.6 各パラメータの設定方法

4.6.1 コンディションデータの設定

プロテクトレベルや測定レンジ、各制御の動作タイプなど基本的な動作を設定するパラメータグループです。



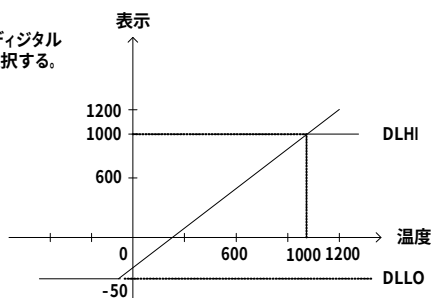


スケリングデータの設定例

設定例1

コンディショナーでデジタルリミットタイプはCUTを選択する。

DLHI : 1000
DLLO : -50



※デジタルリミット機能

デジタルリミット機能は、コンディショナー内のデジタルリミットタイプ設定とスケリングデータ内のデジタルリミット値設定値と併用して表示を制御する機能です。

コンディショナー内のデジタルリミットタイプでカット(CUT)を選択すると、上記設定例1の様にスケリングデータ内で設定したリミット値で表示が維持されます。また、デジタルリミットタイプでオーバー(OVER)を選択するとスケリングデータ内で設定したリミット値以上の表示になる入力があった場合には、o.L.を表示します。

4.6.3 リニアライズデータの設定

入力値と表示値の直線性を補正する機能に関するパラメータグループです。リニアライズ機能とは入力と表示の直線関係を任意のポイントで補正して傾きを変える機能です。リニアライズデータは任意のポイントの入力値(補正前の表示値)と出力値(補正後の表示値)により設定します。

リニアライズ機能をご使用される場合には、このリニアライズの設定を行った後、コンディショナー内のリニアライズ機能設定をONにして初めてリニアライズが機能します。

※設定条件は、 $N-1 < N-2 \cdots N-15 < N-16$ となり、条件を満足しない場合Errを表示しますので、再設定してください。また、リニアライズポイントは16点までですが、設定時に17～19も表示されます。17～19を設定した場合には強制的に16と設定されます。

測定動作

12345

(E)+(M)

cond

(S)

L n E

(M)

n - 0.0

(S)

(A)

1.0

(M)

n - 0.1

(M)

. 0 RE

(M)

. 0 DZ

(M)

①測定動作中にエンターキーとモードキーを押してコンディショナーデータ設定モードに入る。

②シフトキーを2回押すとリニアライズデータ設定モードへ移行する。

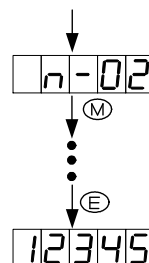
③モードキーを押すとリニアライズポイント数設定を表示する。

④シフトキー及びインクリメントキーを使用してリニアライズポイント数を設定する。
(設定例は、リニアライズポイント数を10に設定)
(S):設定桁の移動に使用(シフトキー)
(A):数値の設定に使用(インクリメントキー)
※ポイント数を設定しないと次へ移行できない。
モードキーによりリニアライズ設定から抜け出すことが出来る。

⑤モードキーを押すとリニアライズポイントを表示する。

⑥モードキーを押すとリニアライズポイントに対する入力値設定を表示する。
入力値設定時には、RE LEDも点滅します。
※入力値とは、リニアライズ実行前の入力に対する表示値です。

⑦モードキーを押すとリニアライズポイントに対する出力値設定を表示する。
入力値設定時には、DZ LEDも点滅します。
※出力値とは、リニアライズ実行後の入力に対する表示値です。



⑧エンターキーを押して測定動作に復帰する。
※設定完了後は、コンディショナーデータのリニアライズ機能設定で機能を設定してご使用ください。

5. その他の機能について

5.1 表示シフト機能

表示シフト機能とは、入力信号の傾斜を変えずに表示のみを任意にシフトさせる機能です。

測定動作

12345

(M)+(S)

S H F

(M)

. 0

(S)

(A)

- 0345

(M)

12.000

(E)

12000

①測定動作中にモードキーとシフトキーを押して表示シフト設定モードに入る。

②シフト数値設定モードに入る。

③シフトキー及びインクリメントキーを使用してシフトさせたい数値を設定する。
(設定例はフルスケール表示値を-345に設定)

(S):設定桁の移動に使用(シフトキー)

(A):数値の設定に使用(インクリメントキー)

※極性は最上桁をインクリメントすることにより切り換えます。

④モードキーで演算結果の確認をする。
この時、 10^2 及び 10^3 の小数点が点滅する。

⑤エンターキーを押して測定動作に復帰する。

※シフト機能を解除する場合には、0を設定する。

5.2 モニターモード

A8000シリーズは、メイン表示部に最大値、最小値、(最大値-最小値)、入力値を表示することが出来ます。エンターキーを押しながらインクリメントキーを押すことにより各モードの表示状態となります。モードの切替は、シフトキーを約1秒間押し続けることで行います。最大値→最小値→(最大値-最小値)→入力値の順に切り替わります。また、インクリメントキーを約1秒押し続けることによって表示をクリアすることができます。エンターキーを押すことにより通常表示に戻ります。(次回モニターモードにはいる場合、前回抜け出したモードになります)

最大値: 10^4 桁の小数点が点滅して、最大値を表示します。

最小値: 10^0 桁の小数点が点滅して、最小値を表示します。

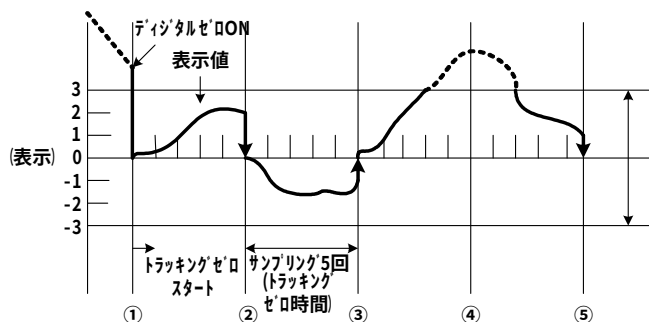
最大値-最小値: 10^0 桁と 10^4 桁の小数点が点滅して、最小値と最小値との差を表示します。また表示可能範囲を超えた場合、 10^3 桁の表示が□となり、小数点が点灯します。

入力値: 10^0 桁と 10^1 桁の小数点が点滅して、入力値を表示します。

5.3トラッキングゼロ

トラッキングゼロは、ゼロ点の移動を内部でデジタル的に自動補正する機能です。この機能はデジタルゼロ機能が有効になった時点から動作を開始します。補正は、コンディションデータ設定のトラッキングゼロ時間設定及びトラッキングゼロ幅設定で設定された値により行います。

設定例 トラッキングゼロ時間設定 5(平均[サンプリング]回毎に補正)
トラッキングゼロ幅設定 3(補正幅 3digit)



- ① デジタルゼロ機能ON表示はゼロ
- ②③ サンプリング5回目の時表示が3digits以下なので補正して表示ゼロ
- ④ 補正值から外れているので補正しない
- ⑤ 3digits以下なので補正して表示ゼロ

6. 外部制御機能について

BCD出力付きの場合、外部制御としてホールド、デジタルゼロ(端子制御)、ピークホールド機能があります。

外部制御端子は、電源及び入力と直流的に絶縁されています。

6.1ホールド機能

ホールド機能とは任意のタイミングで表示を止める機能です。HOLD端子とD.COM端子を短絡、または"0"レベルにすることにより機能がONします。

6.2デジタルゼロ機能

デジタルゼロ機能とは任意のタイミングで表示をゼロとして、以後はそのポイントからの変動幅を表示する機能です。尚、デジタルゼロ機能のON/OFF制御は端子制御と前面キーによる操作とがあります。端子制御の場合にはDZ端子とD.COM端子を短絡、または"0"レベルにすることにより機能がONします。

前面キー制御の場合にはモードキーを押しながらインクリメントキーを押すと機能がONします。もう一度同じ操作をすると機能がOFFとなります。

※制御端子と前面キーによる操作は端子制御が優先となります。

6.3ピークホールド機能

ピークホールド機能とは最大値(ピークホールド)/最小値(バレーホールド)/最大値-最小値(ピークバレーホールド)の何れかを保持する機能です。これらの保持機能の切換は、コンディションデータにより行います。P/H端子とD.COM端子を短絡、または"0"レベルにすることにより機能がONします。

6.4制御端子レベル

各制御端子のレベルは下記の通りです。

"0"レベル: 0~1.5V

"1"レベル: 3.5~5V

入力電流: -0.5mA

7.仕様

■入力仕様

●温度測定(測温抵抗体)

レンジ	センサ	測定範囲	最高分解能	精度
PA	Pt100Ω	-100.0~+199.9°C	0.1°C	±(0.15% of FS)
JPA	JPt100Ω			
PB	Pt100Ω	-100~+600°C	1°C	±(0.3% of FS)
JPB	JPt100Ω	-100~+500°C		

抵抗体電流: 約1mA

外部抵抗: 1線あたり10Ω以下

バーンアウト警告: ———

リニアライザ: デジタルリニアライザ

■共通仕様

入力回路: シングルエンド型

動作方式: ΔΣ変換方式

表示: 赤色7セグメントLED 文字高 約10mm

サンプリング速度: 最高12.5回/秒

表示範囲: -19999~19999

オーバーレンジ警告: 表示範囲以上の入力信号に対して0.L.又は-0.L.表示

ゼロ表示: リーディングゼロサプレッス

使用温湿度範囲: 0~50°C 35~85%RH(非結露)

保存温湿度範囲: -10~70°C 60%RH以下(非結露)

外形寸法: 48mm(W)×24mm(H)×89.1mm(D)

重量: 約70g

耐電圧: 電源-入力、BCD出力、外部制御端子間 DC500V 1分間

入力-BCD出力、外部制御端子間 DC500V 1分間

ケース-各端子間 AC1500V 1分間

絶縁抵抗: 上記端子間 DC500V 100MΩ以上

■電源仕様

電源電圧範囲: DC4.75~13.2V

電源電圧範囲: DC10.8~26.4V

消費電力: 約1.5W

■オプション仕様

●BCD出力

◎TTL出力

測定データ: トライステートパラレルBCD

極性信号: マイナス表示の時1レベル

オーバー信号: オーバー表示の時1レベル

印字指令信号: 測定完了後に正パルス出力

出力論理: 切換可能(PC論理の切換は不可)

出力信号: TTLレベル ファンアウト=2 CMOSコンパチブル

◎オープンコレクタ出力(NPN型)

測定データ: 負論理 論理1の時 トランジスタ ON

極性信号: マイナス表示の時 トランジスタ ON

オーバー信号: オーバー表示の時 トランジスタ ON

印字指令信号: 測定完了後に トランジスタ ON

出力論理: 切換可能(PC論理の切換は不可)

トランジスタ出力容量: 電圧 DC30V Max. 電流 10mA Max

出力飽和電圧 10mA時 1.2V以下

◎イネーブル

ENABLE入力: ENA端子とD.COM端子を短絡または"0"レベルにすることによりBCD出力がハイインピーダンス(TTL)またはトランジスタOFFとなります。

制御信号"0"レベル: D.COMに対して、0~1.5V

制御信号"1"レベル: D.COMに対して、3.5~5V

●外部制御

ホールド: HOLD端子とD.COM端子を短絡または"0"レベルによりホールドON

デジタルゼロ: DZ端子とD.COM端子を短絡または"0"レベルによりデジタルゼロON

ピークホールド: PH端子とD.COM端子を短絡または"0"レベルによりピークホールド機能ON

制御信号"0"レベル: D.COMに対して、0~1.5V

制御信号"1"レベル: D.COMに対して、3.5~5V

8. パラメーター一覧

8.1 コンディションデータ

メニュー表示	パラメータ名称	初期値 (注)	PLレベル	設定可能範囲 又は選択肢	主な設定目的と注意事項
PL (P.L)	プロテクトレベル	PL0	PL2	PL0/PL1 PL2/PL3	誤操作防止のためのプロテクトレベルを選択します。レベルが上がる程、設定パラメータが制限されます。
PH (PVH)	PHセレクト	PH	PL0	PH/PH/PH	PH機能を有効にしたときに動作するタイプ(ピークホールド/バレーホールド/ピークバレーホールド)を選択します。
RANG (RANG)	入力レンジ	JPb	PL1	PA/Pb/JPA/JPb	入力センサ及び表示分解能を選択します。
AVG (AVG)	平均回数	1	PL1	1/2/4/8/10/20 40/80/100/200	平均回数(サンプリング速度)を選択します。サンプリング速度は12.5回/秒(80ms)の平均回数として設定します。実際のサンプリング時間となります。
MAV (MAV)	移動平均回数	OFF	PL0	OFF/2/4 8/16/32	移動平均回数を選択します(フィルタ効果 小 OFF⇔2⇔4⇔8⇔16⇔32 フィルタ効果 大)。
S.WD (S.WD)	ステップワイド	1	PL0	1/2/5/0	最小桁の分解能を設定します(5に設定した場合、最下桁は0又は5のみ表示します)。
BLNK (BLNK)	表示ブランクレベル	OFF	PL0	OFF/b-3/b-2 b-1/on	表示の輝度を選択します(明るい OFF⇔b-3⇔b-2⇔b-1⇔ON 消灯)。
UNIT (UNIT)	温度表示単位	C	PL0	C/F	表示温度単位の設定を行います。Cで摂氏、Fで華氏を表示します。
DLT (DLT)	デジタルリミッタタイプ	CUT	PL0	CUT/OL	表示可能範囲タイプの設定を行います。CUTで設定値、OVERでOLを表示します。
BCD.L (BCD.L)	BCD出力論理	NLO	PL0	NLO/PLLO	BCD出力の論理(N:負論理、P:正論理)を選択します。 *BCD出力ありのみ
D.VP (D.VP)	DZバックアップ	OFF	PL0	OFF/on	電源OFF時にデジタルゼロ値をバックアップするかどうかを選択します。
LINE (LINE)	リニアライズ	CLR	PL0	CLR/OFF/on	リニアライズ機能の有効(ON)/無効(OFF)及びデータクリア(CLR)の選択をします。
TR.T (TR.T)	トラッキングゼロ補正時間	00	PL0	00 ~ 99	トラッキングゼロ機能の有効/無効及び補正時間(設定値/変換速度)を設定します。
TR.W (TR.W)	トラッキングゼロ補正幅	01	PL0	01 ~ 99	トラッキングゼロ機能の補正幅を設定します。 *TR.Tが00以外の時のみ
PON (PON)	パワーオンディレイ時間	OFF	PL0	OFF ~ 30	電源投入時から実際に測定動作を開始するまでの時間(設定値×1秒)を設定します。

(注) 表示のSWなしの場合は、ご注文時に指定の設定値が設定され、プロテクトレベルはPL3となります。

8.2 スケーリングデータ

メニュー表示	パラメータ名称	初期値 (注)	PLレベル	設定可能範囲 又は選択肢	主な設定目的と注意事項
DLHI (DLHI)	デジタルリミッタHI	9999	PL0	-9999 ~ 9999	表示可能範囲の上限値を設定します(デジタルリミッタHI設定値以上は数値が更新されず設定した値で保持します)。
DLLO (DLLO)	デジタルリミッタLO	-9999	PL0	-9999 ~ 9999	表示可能範囲の下限値を設定します(デジタルリミッタLO設定値以下は数値が更新されず設定した値で保持します)。

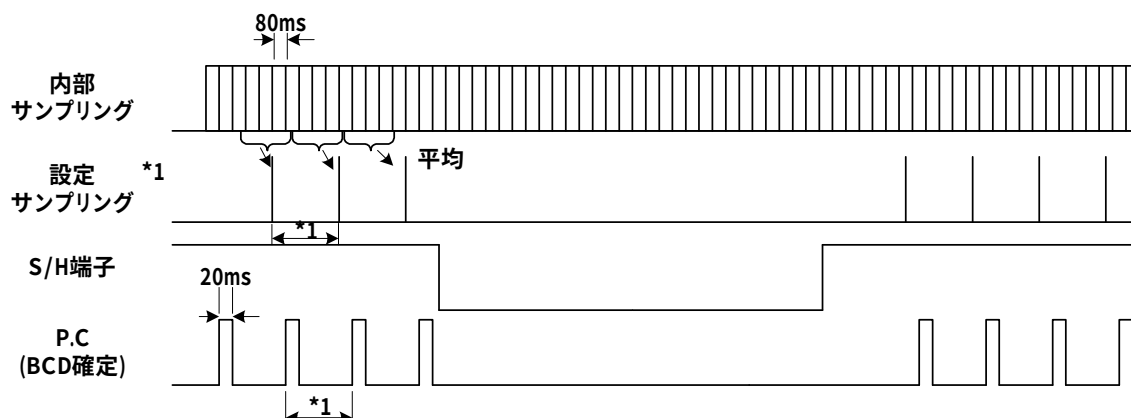
(注) 表示のSWなしの場合は、ご注文時に指定の設定値が設定され、プロテクトレベルはPL3となります。

9. エラーメッセージ

エラー表示	エラー内容	復旧及び対処方法
	入力値、表示値が測定範囲を越えた場合	指定されたレンジの測定範囲範囲及び表示範囲内でご使用ください。
	マイクロコンピュータがデータ入力待ちの状態	平均回数が必要以上に大きく設定されていないか確認してください。
	本体内部メモリーの異常	電源を再投入してください。それでも復旧しない場合には、取扱店または直接弊社までご連絡ください。
	コンディションデータ異常	コンディションデータを再設定してください。 ※1個以上のデータを変更し、さらにパラメータを1巡させる。
	スケーリングデータ異常	スケーリングデータを再設定してください。 ※1個以上のデータを変更し、さらにパラメータを1巡させる。
	リニアライズデータ異常	リニアライズデータを再設定してください。 ※1個以上のデータを変更し、さらにパラメータを1巡させる。
	シフトデータ異常	シフトデータを再設定してください。
	デジタルゼロ値 バックアップデータ異常	デジタルゼロ値の書き込み動作を行ってください。

※全ての前面キー（エンター、モード、シフト、インクリメントキー）を押しながら電源を投入することにより、全てのパラメータを初期値とすることが出来ます。

10. タイミングチャート



*1 設定サンプリング

コンディションデータのAVGパラメータにより設定する値が実質的なサンプリング速度となります(下表参照)。

AVG 設定回数	設定 サンプリング速度	設定 サンプリング周期	AVG 設定回数	設定 サンプリング速度	設定 サンプリング周期
1	12.5回/秒	80ms	20	0.625回/秒	1.6s
2	6.25回/秒	160ms	40	0.3125回/秒	3.2s
4	3.125回/秒	320mS	80	0.15625回/秒	6.4s
8	1.5625回/秒	640ms	100	0.125回/秒	8s
10	1.25回/秒	800ms	200	0.0625回/秒	16s

11. 保証とアフターサービス

11.1 保証

保証期間は納入日より1ヶ年となっております。この間に発生した故障で明らかに弊社に原因があると判断される場合は、無償にて修理いたします。

11.2 アフターサービス

本製品は厳重な品質管理の元で製造、試験、検査をして出荷しておりますが、万一故障した場合、取扱店又は直接弊社までご連絡(送付)下さい(故障内容は出来るだけ詳しくメモされ、現品と同封していただけると幸いです)。

watanabe
渡辺電機工業株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-16-19
TEL 03-3400-6141
FAX 03-3409-3156

Homepage <http://www.watanabe-electric.co.jp/>